

令和6年12月13日

文化庁企画調整課

課長 寺本 恒昌 様

全国大学博物館学講座協議会

委員長大学 明治大学

代 表 駒見和夫



改訂された「大学における学芸員学芸員養成課程の科目のねらいと内容」に対する意見の提出

文化庁より本年6月に改訂発出された「大学における学芸員学芸員養成課程の科目のねらいと内容」に対して、全国大学博物館学講座協議会（加盟178大学）としての意見を提出いたします。

この改訂にあたり、本協議会では令和5年11月1日に、「大学における学芸員養成科目のカリキュラムポリシーに関する意見」を文化庁企画調整課博物館振興室長宛に提出いたしました。私どもの意見を取り入れていただいたところもあり感謝いたしますが、大学で学芸員養成教育を実際に担う教職員としては現実にそぐわず、疑問の部分もみとめられます。本協議会では、学芸員養成教育の質のさらなる向上を目指して取り組んでいきたいと考えており、この意見書を提出する次第です。

また、先に提出した「大学における学芸員養成科目のカリキュラムポリシーに関する意見」（令和5年11月1日）でも述べましたように、今回の改訂のように従前の科目をそのままにして内容だけを見直すのではなく、19単位の枠の中で、実習を含めて科目の名称とその内容を整理し見直すべきというのが本協議会の意見です。今回提出する意見は、現在の科目体系での内容の見直しだけでは従前以上に無理や不均衡が生じていることの主張です。

今後、本協議会では学芸員養成科目の再検討に取り組み、学芸員養成教育のより望ましい科目体系等を検討し、その方策を提案していく方針です。本協議会では、学芸員資格制度を構築する抜本的な対策が必要であると考えています。

文化庁におかれましても、学芸員資格制度の改善を推進されますことを強く要望いたします。その際には、大学教育において学芸員養成課程を担当する私ども教職員の意見を、十分にお汲み取りいただきたくお願い申し上げます。

改訂された「大学における学芸員養成課程の科目のねらいと内容」に対する意見

全国大学博物館学講座協議会

1. 全体に対して

- ・科目に内容の重複が多く、整理が必要（特にメディア論の取り扱い）である。
- ・「デジタル・アーカイブ」「ICT 活用」「連携」に関する科目の集約、あるいは概説科目の設定と各論での教授内容の焦点化が必要である。「博物館資料論」では、教育内容にデジタルデータ関係が増え、博物館資料そのものに関する学習比率が減った感がある。
- ・現場、および指導の実態に合わせて内容の文言を修正すべきである。
- ・このねらいと内容の上位にあるべき到達目標を設けるべきである。
- ・学芸員認定試験において、この指針に示された内容と出題内容の整合性が必要である。特に「博物館情報・メディア論」は、従来の科目内容に挙げられていない項目が出題されている実態がある。

2. 各科目に対して

①生涯学習概論

- ・「生涯学習を通じた文化芸術の発展」の項目が新たに入っているが、生涯学習概論は社会教育主事課程や図書館司書課程とも共通するため、学芸員養成課程だけの判断でこの内容を定めるのは不適当である。

②博物館概論

科目全体に関して

- ・概論で講ずる内容が大幅に増補されている。概論では概念、法令、歴史等の博物館／博物館学の基礎に注力して学ぶことが肝要であるため、各項目の講義内容の希薄化が懸念される。

「○博物館の定義」に関して

- ・「活動基盤としての調査研究」を概論に入れるのであればこの項目を独立させず、「目的・機能」において収集・保管・調査研究・展示の4大機能を適切に論ずる機会を作り、ここに集約して扱うべきである。

- ・概論では各機能の概説を行うが、各論においてより詳細な内容について教授するのが適切である。

「○博物館の歴史と動向」に関して

- ・職員の項目が経営論から移設され、「施設・設備」と離されてしまった。人員と施設は相互に関連する項目のため、両者を合わせて従来通り経営論で論ずることが適切である。
- ・「博物館倫理（行動規範）」は、行動規範だけが倫理ではないため、「博物館の倫理」とすべきである。
- ・概論では博物館関連法令を重点的に学び、行動規範を含めた博物館倫理は国際的な動向ともかかわることから、概論では概略を、経営論で詳細を学ぶのが内容のバランスからも適切である。

③博物館経営論

「○ 博物館の経営基盤」に関して

- ・「施設・設備（ユニバーサル化・付帯施設を含む）」の「付帯施設」が何を指しているのかわからない。
- ・上記の「ユニバーサル化」に付帯して、バリアフリーやユニバーサルデザインからの変遷を含め、アクセシビリティやインクルージョンに関する項目を追加すべきではないか。

「○ 博物館の経営」に関して

- ・「経営戦略と財務」は、博物館は非営利であることが原則であるため、「戦略」の言葉は不適当ではないか。また、「経営戦略」は経営学でいうところのイノベーションを含むものか、不明瞭である。さらに、「経営戦略」が十分に出来ていない博物館が日本では多数を占める中で、大学でそれを教えることは難易度が高い。また、多くの博物館が財務データを公開していない中で、日本の博物館の財務を教えるのは、実データに基づく分析が困難かつ先行研究もほとんどないため困難である。実態として導入が進んでいる指定管理者制度やPFI、また博物館の統廃合の根拠となりかねない公共施設等総合管理計画を教えるべきである。
- ・「成果の社会還元」は、何の成果なのか内容が不明瞭で、また資料論の「調査研究成果の還元」との差異が理解しづらい。

「○ 博物館と多様な主体との連携」に関して

- ・「多様な主体」という言葉が、連携先をよりわかりにくくしている。「博物館における連携」とし、「他機関」の内容として「類縁機関等」を具体的に「図書館・公民館等」などと指示示すのが適切である。

④博物館資料論

「○ 博物館資料の収集・保管・活用」に関して

- ・「収集と保管」と「調査研究と活用」に分けた整理が適切ではないか。
- ・「収集と保管」では、収集理念（情報の記録、収集の倫理・法規等）と収集方法（受入手続き・出入庫管理・登録等）を学習する。
- ・「調査研究と活用」は、「資料の調査研究の意義と成果の還元」「資料公開の理念と方法（アクセス権、特別利用等を含む）」「資料のデジタル化の方法と管理」「長期的視野に立ったコレクション管理」と項目をあげるとわかりやすい。
- ・「関係機関との連携（図書館や公文書館等）」は、資料だけに收れんする話ではない。連携の大略は経営論で論じ、より資料に特化した詳細な内容を資料論で講ずるのが適切である。

「○ デジタル・アーカイブの構築と資料管理」に関して

- ・デジタル・アーカイブの総論的な内容は、情報・メディア論で一元的に学ぶのが望ましい。今回の改訂で各科目に分散配置されたデジタル・アーカイブの項目は、展示・保存・管理などに特化して論ずるのが適切である。なお、「資料のデジタル化と公開」は、デジタルミュージアムと共に展示論で扱うと教えやすい。
- ・デジタル化については、一次資料としての音声記録や画像記録などをデジタル化する取り扱いのメソッド（資料保存化の過程）なのか、それとも、収蔵資料をデータ化し、オープンソースとして活用するためのメソッド（活用化の過程）を学習させるのかが、はっきりしていない。オープンソース

スとしてのデータ化なら、資料保存論もしくは情報・メディア論で扱うべきである。

「○ 博物館資料に関する調査研究」に関して

- ・「アクセス権、特別利用等」は、「アクセス権、特別利用、地域連携等」とし、地域社会と博物館の関係性を踏まえ学習項目を設定することが望ましい。

⑤博物館資料保存論

「○ 博物館における資料保存の意義」に関して

- ・理化学的な博物館資料の保存・保全に内容を集約するべきである。
- ・博物館資料の地域資源の部分を増補するべきである。
- ・博物館資料の保護・保全に関する法規（国内法、国際法）の知識が学芸員には必須であり、ここにその項目を設けるべきである。
- ・「博物館資料の保護・保全史」の項目を立てるべきである。
- ・修復理念、オーセンティシティ、リバーシビリティなどの、基礎的事項を明記すべきである。

「○ 博物館資料の保存環境」に関して

- ・「連携・ネットワークによる資料の保全」はどのような内容を指しているのかわからない。

⑥博物館展示論

「○ 博物館展示の意義」に関して

- ・「展示と展示論の歴史」は「展示の諸形態」とあわせて「展示の歴史と諸形態」としてはどうか。

「○ 博物館展示の実際」に関して

- ・展示の制作の中に入っている企画は単なる業務の一部ではないので、キュレーションとして独立すべきである。
- ・追加された「ICT を活用した展示」は具体的な教授内容が不明瞭であり、それを示すべきである。
- ・ユニバーサル展示、多様な背景をもつ人たちが楽しめる展示、対話型の展示などの事例や考え方、また、国際化対応（多言語解説等）を学ぶ項目を加えるべきである。

⑦博物館教育論

「○ 学びの意義」に関して

- ・「学びの意義」は生涯学習概論と重複する。博物館教育の機能や意義は博物館教育の歴史と密接にかかわっているため、「博物館教育の歴史」を入れることが望ましい。

「○博物館の利用と学び」に関して

- ・利用実態の把握に必要となる「来館者調査」の項目を入れるのが望ましい

「○博物館教育の実際」に関して

- ・「連携による教育活動（他館、社会教育施設、企業等）」は、「教育活動の企画と実施」の中に含まれるため、集約すべきである。

⑧博物館情報・メディア論

「○ 博物館情報・メディアの理論」に関して

- ・「デジタル・アーカイブの意義・方法・課題」では、デジタル・アーカイブの総論を取り扱うことを重視し、管理や公開などに関しては資料論や展示論などでより詳細に講ずることが適切である。

「○ 博物館における情報発信」に関して

- ・これまで経営論の「利用者との関係」に広報の文字があったが、改訂版からは広報を PR の字に代えている。今日、広報や PR に情報機器は欠かせないことから、情報を取り扱う当科目に広報で教授するのが適切である。

「○ 博物館に関する法と権利」に関して

- ・「法と権利」の名称が改正されたが、法律は概論において重点的に講じ、メディア論では著作権・肖像権・個人情報などについて分量を増やして学ぶのが現実的である。そのため、「○博物館に関する法と権利」の項目は博物館概論に設定し、博物館情報・メディア論では、「○博物館と知的財産」とすることが適切である。なお、「・個人情報（肖像権等）」とされているが、肖像権は知的財産権に含まれるものである。

以上

各科目の内容に対する意見の対応表

	旧版内容	新版内容	全博協意見案（赤字部分、削除部分もあり）
生涯学習概論 [2単位]	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習社会の意義と生涯学習社会の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯教育論・生涯学習論の生成と展開 ・学習機会の多様化・拡大化 ・生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携 ・生涯学習振興施策の展開とその推進 ○生涯学習の意義と特性 <ul style="list-style-type: none"> ・教育の原理と生涯学習の意義・特質 ・我が国及び諸外国における生涯学習の発展と特質 ○生涯学習・社会教育行政の展開 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習・社会教育行政の意義と役割 ・社会教育行政・生涯学習振興行政・一般行政の関連（関係法令と行政組織） ・生涯学習・社会教育施設等の管理と運営 ○生涯学習の内容・方法と指導者 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の内容・方法・形態 <ul style="list-style-type: none"> （成人の学習、生涯発達と教育の関連、学習情報の提供と学習相談を含む） ・学習への支援と学習成果の評価と活用 ・生涯学習・社会教育指導者の役割 	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習社会の意義と生涯学習社会の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯教育論・生涯学習論の生成と展開 ・学習機会の多様化・拡大化 ・生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携 ・生涯学習振興施策の展開とその推進 ○生涯学習の意義と特性 <ul style="list-style-type: none"> ・教育の原理と生涯学習の意義・特質 ・我が国及び諸外国における生涯学習の発展と特質 ○生涯学習・社会教育行政の展開 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習・社会教育行政の意義と役割 ・社会教育行政・生涯学習振興行政・一般行政の関連（関係法令と行政組織） ・生涯学習・社会教育施設等の管理と運営 ○生涯学習を通じた文化芸術の発展 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の内容・方法と指導者 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の内容・方法・形態（生涯発達と教育の関連、学習情報の提供と学習相談を含む） ・学習への支援と学習成果の評価と活用 ・生涯学習・社会教育指導者の役割 	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習社会の意義と生涯学習社会の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯教育論・生涯学習論の生成と展開 ・学習機会の多様化・拡大化 ・生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携 ・生涯学習振興施策の展開とその推進 ○生涯学習の意義と特性 <ul style="list-style-type: none"> ・教育の原理と生涯学習の意義・特質 ・我が国及び諸外国における生涯学習の発展と特質 ○生涯学習・社会教育行政の展開 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習・社会教育行政の意義と役割 ・社会教育行政・生涯学習振興行政・一般行政の関連（関係法令と行政組織） ・生涯学習・社会教育施設等の管理と運営 ○生涯学習を通じた文化芸術の発展 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の内容・方法と指導者 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の内容・方法・形態（生涯発達と教育の関連、学習情報の提供と学習相談を含む） ・学習への支援と学習成果の評価と活用 ・生涯学習・社会教育指導者の役割
博物館概論 [2単位]	<ul style="list-style-type: none"> ○博物館学の目的・方法・構成 <ul style="list-style-type: none"> ・博物館学の目的・方法・構成 ・博物館史 ○博物館の定義 <ul style="list-style-type: none"> ・定義（類縁機関との違いを含む） ・種類（館種、設置者別、法的区分等） ・目的 ・機能 ○博物館の歴史と現状 <ul style="list-style-type: none"> ・我が国及び諸外国の博物館の歴史 ・我が国及び諸外国の博物館の現状 ・学芸員の役割（定義、役割、実態） ・博物館関係法令 	<ul style="list-style-type: none"> ○博物館学の目的・方法・構成 <ul style="list-style-type: none"> ・博物館学の目的・方法・構成 ・博物館史 ○博物館の定義 <ul style="list-style-type: none"> ・定義（類縁機関との違いを含む） ・種類（館種、設置者別、法的区分等） ・目的・機能 ・活動基盤としての調査研究 ○博物館の歴史と動向 <ul style="list-style-type: none"> ・我が国及び諸外国の博物館の歴史 ・我が国及び諸外国の博物館の動向 ・館長、学芸員、その他の職員の役割 ・博物館倫理（行動規範） ・博物館関係法令 ・博物館と社会（地域課題への対応、国際社会、多文化共生） 	<ul style="list-style-type: none"> ○博物館学の目的・方法・構成 <ul style="list-style-type: none"> ・博物館学の目的・方法・構成 ・博物館史 ○博物館の定義 <ul style="list-style-type: none"> ・定義（類縁機関との違いを含む） ・種類（館種、設置者別、法的区分等） ・目的・機能 ・活動基盤としての調査研究 ○博物館の歴史と現状 <ul style="list-style-type: none"> ・我が国及び諸外国の博物館の歴史 ・我が国及び諸外国の博物館の現状 ・博物館の倫理の概略 ・博物館関係法令（文化芸術基本法を加えて） ・博物館と社会（地域課題への対応、国際社会、多文化共生、持続可能性）
博物館経営論 [2単位]	<ul style="list-style-type: none"> ○博物館の経営基盤 <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアムマネージメントとは ・行財政制度 ・財務 ・施設・設備（ユニバーサル化を含む） ・組織と職員 ○博物館の経営 <ul style="list-style-type: none"> ・使命と計画と評価 ・博物館倫理（行動規範） ・博物館の危機管理 ・利用者との関係（広報・マーケティング、ミュージアムショップ等） ○博物館における連携 <ul style="list-style-type: none"> ・市民参画（友の会、ボランティア、支援組織等） ・博物館ネットワーク・他館との連携 ・他機関（行政・大学・類縁機関等）との連携 ・地域社会と博物館（地域の活性化、地域社会との連携） 	<ul style="list-style-type: none"> ○博物館の経営基盤 <ul style="list-style-type: none"> ・博物館経営と意義 ・行財政制度 ・施設・設備（ユニバーサル化・付帯施設を含む） ・組織と職員 ○博物館の経営 <ul style="list-style-type: none"> ・使命と計画と評価 ・経営戦略と財務 ・博物館の危機管理 ・成果の社会還元 ○博物館と多様な主体との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者との関係（PR・マーケティング等） ・市民参画（友の会、ボランティア、支援組織等） ・博物館ネットワーク・他館との連携 ・他機関（行政・大学・類縁機関等）との連携 ・地域社会と博物館（地域の活性化、地域社会との連携） 	<ul style="list-style-type: none"> ○博物館の経営基盤 <ul style="list-style-type: none"> ・博物館経営と意義 ・行財政制度 ・博物館建築・施設・設備（ユニバーサル化・付帯施設を含む） ・組織と職員（館長、学芸員、その他の職員の役割と実態） ○博物館の経営 <ul style="list-style-type: none"> ・使命と計画と評価 ・経営と財務（指定管理制度、PFI等を含む） ・危機管理 ・博物館の倫理および行動規範 ○博物館における連携 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者との関係（PR・マーケティング等） ・市民参画（友の会、ボランティア、支援組織等） ・博物館ネットワーク・他館との連携 ・他機関（行政・大学・図書館・公文書館等）との連携 ・地域社会と博物館（地域課題への対応、地域社会との連携） <p style="text-align: right;">「付帯施設」が不明瞭</p>

<p>博物館資料論 [2単位]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○博物館資料の概念 <ul style="list-style-type: none"> ・資料の意義 ・資料の種類 ・資料化の過程 ○博物館資料の収集・整理・活用 <ul style="list-style-type: none"> ・収集理念と方法（情報の記録、収集の倫理・法規、受入手手続き・登録等） ・資料の分類・整理（目録作成を含む） ・資料公開の理念と方法（アクセス権、特別利用等を含む） ○博物館における調査研究活動 <ul style="list-style-type: none"> ・調査研究活動の意義と内容 <ul style="list-style-type: none"> （博物館資料に関する研究、資料保存に関する研究、博物館に関する研究等） ・調査研究成果の還元 	<ul style="list-style-type: none"> ○博物館資料の概念 <ul style="list-style-type: none"> ・資料の意義 ・資料の種類 ・資料化の過程 ○博物館資料の収集・保管・活用 <ul style="list-style-type: none"> ・収集理念と方法（情報の記録、収集の倫理・法規、受入手手続き・登録等） ・資料の分類・整理（目録作成を含む） ・資料公開の理念と方法（アクセス権、特別利用等を含む） ・長期的視野に立ったコレクション管理 ・関係機関との連携（図書館や公文書館等） ○デジタル・アーカイブの構築と資料管理 <ul style="list-style-type: none"> ・資料のデジタル化と公開 ・デジタル・アーカイブによる資料管理 ○博物館資料に関する調査研究 <ul style="list-style-type: none"> ・調査研究による資料の意義づけ ・調査研究成果の還元 	<ul style="list-style-type: none"> ○博物館資料の概念 <ul style="list-style-type: none"> ・資料の意義と種類 ・資料化の過程 ○博物館資料の収集と保管 <ul style="list-style-type: none"> ・収集理念（情報の記録、収集の倫理・法規等） ・収集方法（受入手手続き・出入庫管理・登録等） ・資料の分類と整理（目録作成を含む） ○博物館資料の調査研究と活用 <ul style="list-style-type: none"> ・資料の調査研究の意義と成果の還元 ・資料公開の理念と方法（アクセス権、特別利用等を含む） ・資料のデジタル化の方法と管理 ・長期的視野に立ったコレクション管理 ・関係機関との連携
<p>博物館資料保存論 [2単位]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○博物館における資料保存の意義 ○資料の保全（育成を含む） <ul style="list-style-type: none"> ・資料の状態調査・現状把握 ・資料の修復・修理 ・資料の梱包と輸送 ○博物館資料の保存環境 <ul style="list-style-type: none"> ・資料保存の諸条件とその影響（温湿度、光、振動、大気等） ・生物被害とIPM（総合的有害生物管理） ・災害の防止と対策（火災、地震、水害、盗難等） ○伝統的保存方法 <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵・展示等の保存環境 ○環境保護と博物館の役割 <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の保存と活用（エコミュージアム等） ・文化財の保存と活用（景観、歴史的環境を含む） ・自然環境の保護（生物多様性・種の保存を含む） 	<ul style="list-style-type: none"> ○博物館における資料保存の意義 ○資料の保全（育成を含む） <ul style="list-style-type: none"> ・資料の状態調査・現状把握 ・資料の修復・修理 ・資料の梱包と輸送 ○博物館資料の保存環境 <ul style="list-style-type: none"> ・資料保存の諸条件とその影響（温湿度、光、振動、大気等） ・生物被害とIPM（総合的有害生物管理） ・災害の防止と対策（火災、地震、水害、盗難等） ○連携・ネットワークによる資料の保全 <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的保存方法 ・収蔵・展示等の保存環境 ・デジタル化と資料情報の保存 ○地域社会における資料保存 <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の保存と活用（エコミュージアム等） ・文化財の保存と活用（景観、歴史的環境を含む） ・自然環境の保護（生物多様性・種の保存を含む） 	<ul style="list-style-type: none"> ○博物館における資料保存の意義 <ul style="list-style-type: none"> ・資料保存の概念、意義（修復理念、オーセンティシティ、リバーシビリティ） ・資料の保護・保全に関する法規（国内法、国際法） ・資料の保護・保全史 ○資料の保全（育成を含む） <ul style="list-style-type: none"> ・資料の状態調査・現状把握 ・資料の修復・修理 ・資料の梱包と輸送 ○博物館資料の保存環境 <ul style="list-style-type: none"> ・資料保存の諸条件とその影響（温湿度、光、振動、大気等） ・生物被害とIPM（総合的有害生物管理） ・災害の防止と対策（火災、地震、水害、盗難等） ○連携・ネットワークによる資料の保全 <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的保存方法 ・収蔵・展示等の保存環境 ・デジタル化と資料情報の保存 ○地域社会における資料保存 <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の保存と活用（エコミュージアム等） ・文化財の保存と活用（景観、歴史的環境を含む） ・自然環境の保護（生物多様性・種の保存を含む）
<p>博物館展示論 [2単位]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○博物館展示の意義 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションとしての展示 ・調査研究の成果の提示 ・展示と展示論の歴史 ・展示の政治性と社会性 ○博物館展示の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・展示の諸形態 <ul style="list-style-type: none"> ・展示の制作（企画、デザイン、技術、施工等） ・関係者との協力（他館、所蔵者、専門業者等） ・展示の評価と改善・更新 ・ICTを活用した展示 <ul style="list-style-type: none"> ・展示の解説活動 <ul style="list-style-type: none"> ・解説文・解説パネル ・人による解説 ・機器による解説 ・展示解説書（展示図録、パンフレット等） 	<ul style="list-style-type: none"> ○博物館展示の意義 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションとしての展示 ・調査研究の成果の提示 ・展示と展示論の歴史 ・展示の政治性と社会性 ○博物館展示の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・展示の諸形態 <ul style="list-style-type: none"> ・展示の制作（企画、デザイン、技術、施工、予算計画等） ・関係者との協力（他館、所蔵者、専門業者等） ・展示の評価と改善・更新 ・ICTを活用した展示 <ul style="list-style-type: none"> ・展示の解説活動 <ul style="list-style-type: none"> ・解説文・解説パネル ・人による解説 ・機器による解説 ・展示解説書（展示図録、パンフレット等） 	<ul style="list-style-type: none"> ○博物館展示の意義 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションとしての展示 ・調査研究の成果の提示 ・展示と展示論の歴史 ・展示の政治性と社会性 ○博物館展示の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・展示の企画（キュレーション） <ul style="list-style-type: none"> ・展示の制作（デザイン、技術、施工、予算計画等） ・関係者との協力（他館、所蔵者、専門業者等） ・展示の評価と改善・更新 ・多様な展示（ユニバーサル展示、多様な背景をもつ人たちが楽しめる展示、対話型展示等） <ul style="list-style-type: none"> ・解説文・解説パネル ・人による解説 ・機器による解説 ・展示解説書（展示図録、パンフレット等）

<p>博物館教育論 [2単位]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学びの意義 ○ 博物館教育の意義と理念 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションとしての博物館教育 (博物館教育の双方向性、博物館諸機能の教育的意義) ・博物館教育の意義 (生涯学習の場としての博物館、人材養成の場としての博物館、地域における博物館の教育機能、博物館リテラシーの涵養等) ・博物館教育の方針と評価 ○ 博物館の利用と学び <ul style="list-style-type: none"> ・博物館の利用実態と利用者の博物館体験 ・博物館における学びの特性 ○ 博物館教育の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・博物館教育活動の手法（館内、館外） ・博物館教育活動の企画と実施 ・博物館と学校教育（博物館と学習指導要領を含む） 	<p>○ 学びの意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 博物館教育の意義と理念 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションとしての博物館教育 (博物館教育の双方向性、博物館諸機能の教育的意義) ・博物館教育の意義 (生涯学習の場としての博物館、人材養成の場としての博物館、地域における博物館の教育機能、博物館リテラシーの涵養等) ・博物館教育の方針と評価 ○ 博物館の利用と学び <ul style="list-style-type: none"> ・博物館の利用実態と利用者の博物館体験 ・博物館における学びの特性 ○ 博物館教育の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・博物館教育活動の手法（館内、館外、ICTの活用等） ・博物館教育活動の企画と実施 ・博物館と学校教育（博物館と学習指導要領を含む） 	<p>○ 博物館教育の歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 博物館教育の意義と理念 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションとしての博物館教育 (博物館教育の双方向性、博物館諸機能の教育的意義) ・博物館教育の意義 (生涯学習の場としての博物館、人材養成の場としての博物館、地域における博物館の教育機能、博物館リテラシーの涵養等) ・博物館教育の方針と評価 ○ 博物館の利用と学び <ul style="list-style-type: none"> ・博物館の利用実態と利用者の博物館体験 ・博物館における学びの特性 ○ 来館者調査 ○ 博物館教育の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・博物館教育活動の手法（館内、館外、ICTの活用等） ・博物館教育活動の企画と実施（連携による活動を含む） ○ 博物館と学校教育（博物館と学習指導要領を含む）
<p>博物館情報・メディア論 [2単位]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 博物館における情報・メディアの意義 <ul style="list-style-type: none"> ・情報の意義(視聴覚メディアの理論と歴史を含む) ・メディアとしての博物館(視聴覚メディアの発展と博物館) ・ICT社会の中の博物館 (情報資源の双方向活用と役割、情報倫理、学校・図書館・研究機関の情報化等) ・情報教育の意義と重要性 ○ 博物館情報・メディアの理論 <ul style="list-style-type: none"> ・博物館活動の情報化（沿革、調査研究活動、展示・教育活動等） ・資料のドキュメンテーションとデータベース化 ・デジタルアーカイブの現状と課題 ・映像理論・博物館メディアの役割と学習活用 ○ 博物館における情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・情報管理と情報公開 ・情報機器の活用（情報端末、新たなメディア経験等） ・インターネットの活用 ○ 博物館と知的財産 <ul style="list-style-type: none"> ・知的財産権（著作権等） ・個人情報（肖像権等） ・権利処理の方法 	<p>○ 博物館における情報・メディアの意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報の意義（メディアの理論と歴史を含む） ○ メディアとしての博物館（メディアの発展と博物館） ○ ICT社会の中の博物館 (情報資源の双方向活用と役割、情報倫理、学校・図書館・研究機関の情報化等) ○ 情報教育の意義と重要性 <p>○ 博物館情報・メディアの理論</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 博物館活動の情報化（沿革、調査研究活動、展示・教育活動等） ○ 資料のドキュメンテーションとデータベース化 ○ デジタル・アーカイブの意義・方法・課題 ○ 映像理論・博物館メディアの役割と学習活用 <p>○ 博物館における情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報管理と情報公開 ○ 情報機器の活用（情報端末、新たなメディア経験等） ○ インターネットの活用 <p>○ 博物館に関する法と権利</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 知的財産権（著作権等） ○ 所有権 ○ 個人情報（肖像権等） ○ 権利処理の方法 	<p>○ 博物館における情報・メディアの意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報の意義（メディアの理論と歴史を含む） ○ メディアとしての博物館（メディアの発展と博物館） ○ ICT社会の中の博物館 (情報資源の双方向活用と役割、情報倫理、学校・図書館・研究機関の情報化等) ○ 情報教育の意義と重要性 <p>○ 博物館情報・メディアの理論</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 博物館活動の情報化（沿革、調査研究活動、展示・教育活動等） ○ 資料のドキュメンテーションとデータベース化 ○ 映像理論・博物館メディアの役割と学習活用 <p>○ デジタル・アーカイブの概念</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ デジタル・アーカイブの意義と課題 ○ デジタル・アーカイブの方法（構築方法、発信、管理） <p>○ 博物館における広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報管理と情報公開 ○ 情報機器の活用（情報端末、新たなメディア経験等） ○ インターネットの活用 <p>○ 博物館と知的財産</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 知的財産権（著作権、肖像権等）と所有権 ○ 個人情報 ○ 権利処理の方法
<p>博物館実習 [3単位]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学内実習 <ul style="list-style-type: none"> ・見学実習（多様な館種の実態理解） ・実務実習（資料の取り扱い、展示、博物館運営等の実務習得） ・事前・事後指導（実習全体の指導、館園実習に関する指導） ○ 館園実習（博物館における実務体験） 	<p>○ 学内実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 見学実習（多様な館種の実態理解） ○ 実務実習（資料の取り扱い、展示、博物館運営等の実務習得） ○ 事前・事後指導（実習全体の指導、館園実習に関する指導） <p>○ 館園実習（博物館における実務体験）</p>	<p>○ 学内実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 見学実習（多様な館種の実態理解） ○ 実務実習（資料の取り扱い、展示、博物館運営等の実務習得） ○ 事前・事後指導（実習全体の指導、館園実習に関する指導） <p>○ 館園実習（博物館における実務体験）</p>

青字：新版で削除されたまたは変更された事項

赤字：全博協案で追加または変更した部分

紫字：全博協内の検討の中で、理解が困難あるいは追加情報が必要と判断した事項